

感謝されて気づいたこと

群馬県 妙義中学校 3年 並木 麗

私は、人に対してなにか親切なことをしたことがあるのだろうか。そう考えたときに、すぐに思い出すことができませんでした。周囲の人からは、親切にしてもらったことがたくさんあるのに。

そう考える中で、一つ思い浮かんだことがありました。小学校6年生のとき、「妙義の宿」という学校行事で、3年生以上の生徒が妙義青少年自然の家に宿泊し、そこから小学校まで歩いて登下校する、4泊5日の集団生活をしたときのことです。

昼間は元気に過ごせる3年生の女の子が、夜になり布団に入ると心細くなり、家に帰りたいたと泣いていました。同じ部屋だった私は、毎晩その子の隣に布団を敷き、話をしたり、励ましたりしながら、その子が安心して眠れるまでいっしょに起きていました。同じ部屋には私の親友もいて、最後の妙義の宿だったので、たくさん話したり、ふざけ合ったりしたかったのですが、私は自分のことよりも、初めて宿泊体験をする女の子のことが気になり、

(このまま元気で、夜も泣かずに寝られるといいのにな)

とっていました。私も、3年生のときに初めて妙義の宿に参加したとき、同じ部屋だった高学年の人が、私の面倒を見てくれて、とても楽しく過ごすことができたのです。

親元を離れて5日間、子どもたちだけで生活をするということは、とても大変なことでしたが、保護者のボランティアや各部屋ごとの話し合い、そして、なによりも大切なのは、自分のことだけではなく、互いに助けあい、協力しながら生活することだと学びました。私は、今度は自分がしてもらったことを下級生にしたのです。

最終日の夜は、毎晩泣いていた子は、私の隣ではなく、友達と布団を並べて眠ることができました。そして私も親友と布団を並べ、(今日は、泣かずに寝られてよかったね。がんばったよね)と、うれしい気持ちでいっぱいになったことを思い出しました。

その数日後、その子が書いた作文が学級通信に載りました。そこには、私のことが書いてあったのです。その作文には、

『夜なかなか眠れずに、泣いていた私の近くで、いつも麗さんがいてくれて、励ましてくれました。そのおかげで最後の日は、友達といっしょに寝られました。私はとってもうれしかったです。私も高学年になったら、麗さんみたいに小さい子の面倒を見たり、やさしくしてあげたいです。』

と書いてあったのです。

私は、とてもびっくりしました。そして、(ああ、こんなふうに思っていてくれたんだあ)と思い、なんだか照れくさいような、うれしい気持ちになりました。あのときは、ただ泣いている姿を見ていて(なんとかしてあげたい)と思い、声をかけていました。まさか、こんな形で感謝の気持ちを伝えてもらえるとは思っていませんでした。

親切とは、相手にされて気づいたり、なにげない行動や言葉が相手に伝わるのです。自分がされてうれしいこと、次は相手に返します。